

今回は、8月17日、18日に行われた口腔顔面痛脳キャンプ in 信州 2019 について、愛知学院大学歯学部麻酔学講座の佐藤曾士先生に報告していただきます。

口腔顔面痛脳キャンプ in 信州 2019 参加報告

愛知学院大学歯学部麻酔学講座 佐藤曾士



集合写真 お盆過ぎの信州も真夏の日差し

2019年8月17日(土)、18日(日)に脳学習キャンプ in 信州 2019 が松本歯科大学で開催されました。今回が3回目の開催ですが、第1回・第2回と都合が合わず参加できなかっただけに、どうしても参加したかった筆者が“よく学んで・よく呑んで・よく遊んだ”有意義な2日間をレポートします。

名古屋から塩尻までは特急で約2時間弱。塩尻駅についた午前11時の気温はすでに31℃。お盆過ぎの信州はさぞかし涼しいであろうと期待し、意気揚々と信州に行きましたが塩尻駅に降り立った瞬間、期待は一気に妄想と化しました。13時には参加者の受付が終わり、金銅英二先生(松本歯科大学 口腔解剖学第一講座,教授)から脳キャンプ全体の概要の説明の後、まずは全体の集合写真から。今回は受講生が22名とのことでした。写真を見ていただければわかるように、当日の日差しはきつく日本の夏はどこにいても暑いと思われ知らされました。

13時には参加者の受付が終わり、金銅英二先生(松本歯科大学 口腔解剖学第一講座,教授)から脳キャンプ全体の概要の説明の後、まずは全体の集合写真から。今回は受講生が22名とのことでした。写真を見ていただければわかるように、当日の日差しはきつく日本の夏はどこにいても暑いと思われ知らされました。

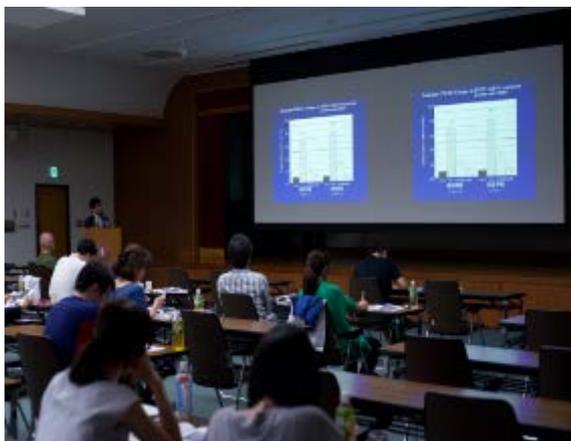


実習室での風景 2人に1つ脳が割り当てられる



金銅講師のテンポの良い解説に引き込まれる

さて、集合写真の後、午後1時20分頃から、松本歯科大学解剖学実習室でいよいよ実習の開始です。まずはご献体への黙祷から。非常にありがたい事に2人1組に様々な断面の脳が割り当てられました。私自身、大学2年生の時、半日だけ脳実習というものがあつたように記憶しています。脳の実質に触れるのはそれ以来、約20年ぶりでしたが、色んな意味でその重みの違いを実感しました。金銅先生の講義を交えながら、脳の外観、内観から神経系の全貌を確認し、実習は刻々と進行します。解剖学講座のスタッフの方が常にそばにいらっしゃるの、不明点などはすぐに解消でき、誰も置き去りになることはありませんでした。筆者は日常臨床で三叉神経痛の患者



北原講師による講義

さんをよく診ていますが、三叉神経のどの部分がどのように圧迫されるかなど、非常に理解が深まりました。当初キャンプの予定が配られた時、スケジュールが若干タイトかなと思っていましたが、休憩を挟んで約4時間弱の講義・実習の時間はあっという間に過ぎ去り、受講生の誰もが心地良い疲れと余韻に浸っていたと思います。実習の後、17時30分から北原紘講師（奈良県立医科大学耳鼻咽喉・頭頸部外科学講座）による“脳機能と疼痛・耳鳴・めまいのメカニズム”に関する講義が始まりました。なかでも良性発作性頭位めまい症が生じるメカニズム・対処症・予防法などは非常に興味深く、多くの受講生が北原先生に質問を投げかけていました。また北原先生は我々の領域に関する話題も

提供され、歯科治療とめまい・歯科治療と顔面神経麻痺の内容は日常臨床に即繋するものでした。

初日の締めは、夕食を兼ねた懇親会からスタートしました。松本歯科大学内の中華レストランで、金銅先生の挨拶から始まり、塩尻のワインあり、福島の日本酒あり、呑助の筆者にはたまらない環境でした。



懇親会一次会の冒頭

一次会でも受講者同士打ち解け、程よいところで解散かと思いきや、二次会がありますとのこと。とその前にコンサートがありますよとのこと。???でロビーに移動したところで、なんと金銅先生自らがオルガンを弾き、参加者をもてなすコンサートが始まったのです。

先生が弾かれた曲はアンコールも含めて3曲、筆者は

金銅先生によるコンサート

SNSで金銅先生とつながっており、先生がオルガンの達人であることは聞き及んでいましたが、初めて聞く先生のオルガンの音色は参加者全員を魅了していました。まさに昼も夜も“百聞は一見に如かず”を実感し、金銅先生のホスピタリティに感激しました。

一次会の後は二次会へ突入。キャンプ参加前に金銅先生から受講者宛に『キャンプですから』といったメールが何度か来たように思いますが、一次会二次会を通した懇親会で参加者皆がまさにそれを実感。そう、まさに我々はキャンプに参加しているのであり、楽しくなきゃキャンプじゃないのです。というわけで二次会は金銅先生の部屋に全員が集まり飲み会???がスタートしました。かしこまって目上の先生の話聞くというわけではなく、和気藹々と色んな話ができ、非常に楽しい時間を丑三つ時まで過ごしたのです。



丑三つ時まで続いた二次会



キャンパス内の食堂で朝食

さて 2 日目の朝は 7 時半に集合です。昨夜の解散時間が真夜中ただけに起きられるかどうか心配でしたが、普段 5 時に起きている筆者にとって習慣とは恐ろしいもの、この日もきつちりと 5 時に目が覚めたのでした。ぞろぞろとロビーに集合した後、キャンパス内の食堂へ移動です。それにしても参加者の皆さんが非常に元気でタフであることには驚かされました。

朝食後、2 日目の朝は 9 時から実習が始まります。初日と同様に先ずはご献体への黙祷から。この日の実習は実物の骨模型を用いて、金銅先生から 12 脳神経の走行・支配領域・内頭蓋底の通過孔の位置関係を詳細な講義をうけながら、観察を行いました。没頭するあまりこの日も時間はあっという間に過ぎ去ります。常日頃なんとなく理解しているつもりでしたが、神経の走行、とりわけ三叉神経の走行を再確認し非常に理解が深まりました。



2 日目の実習風景

実習後、愛知医科大学痛みセンター西須大徳講師による“脳 MRI 画像と病態”に関する講義でキャンプの締めくくりです。筆者は西須先生とは同じ愛知県ということもあり、常日頃から懇意にさせて頂いていますが、いつ聞いても西須先生の話はテンポよく、今回も引き込まれた次第です。講義内容は MRI の原理と見方、MRI 撮像法、疾患 MRI 画像でしたが、特に疾患 MRI 画像は実習で習った内容とリンクしており、具体的に脳のどの部分で何が起こっているかなど大変理解が深まりました。西須先生の講義後、2 日間のキャンプは名残惜しくも終了しました。第 1 回、2 回と参加された先生から必ず参加した方が良いと言われておりましたが、まさにその通りでした。先述したように“百聞は一見に如かず”です。来年も参加したいと強く感じています。



西須講師による講義

最後になりましたが、本キャンプの運営にあたり、ご尽力頂きました金銅英二先生、スタッフの皆様に感謝申し上げます。



【佐藤曾士（旧姓 朴：帰化した際に妻の姓である佐藤になりました）（さとうあいじ）先生のプロフィール】

<略歴>

- 2004 年 岡山大学歯学部歯学科卒業
- 2008 年 大阪大学大学院歯学研究科修了 博士（歯学）
- 2012 年 大阪大学大学院歯学研究科 助教
- 2015 年 英国シェフィールド大学歯学部客員研究員

2016年 愛知学院大学歯学部麻酔学講座助教

2018年 愛知学院大学歯学部麻酔学講座講師

2019年 愛知学院大学院歯学研究科臨床系准教授

<学会活動>

日本口腔顔面痛学会指導医・専門医・評議員

日本歯科麻酔学会専門医 ・認定医・代議員

日本障害者歯科学会認定医

からだ・運動器の痛み専門医療者

抗菌化学療法認定歯科医師

インフェクションコントロールドクター

<研究活動>

本学口腔外科伊藤幹子先生・名古屋大学医学部精神科の先生方と多方面から慢性疼痛に関するアプローチをしています。

日本口腔顔面痛学会 News Letter へのお問い合わせは

「日本口腔顔面痛学会事務局」まで

〒135-0033 東京都江東区深川 2-4-11 一ツ橋印刷株式会社学会事務センター内

TEL: 03-5620-1953, FAX: 03-5620-1960 E-mail: jsop-service@onebridge.co.jp